

市町村名	与那原町							
平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-④	地域特産品開発・販路開拓支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(8)－イ			
担当部課名	企画観光課	事業実施 (予定)年度	平成２６～２８年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と 商業の振興		
事業内容	本町の滞在型・体験型観光の推進を図るため、地域資源を活用した特産品の開発と販売促進、販路開拓を図る活動支援を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	1,665					
		(b) 予算現額	1,665					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額						
		A. 計 (b+d)	1,665					
	B. 執行済額		270					
	うち交付金充当額		216					
	次年度繰越額							
	執行率（％）(B/A)		16.2%					
	予算の状況の説明		当初は県外からの専門家を招集しての事業実施予定であったが、日程的な折り合いがつかず、県内の専門家を委員として事業を実施したため、予算の執行率が16%にとどまった。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	・試作品開発支援 2品	目 標	(試作品開発支援 2品)	()	()	()		
		実 績	試作品開発支援 5品					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
	達成状況説明	試作品については2品を選定する予定であったが、応募作品を精査して結果5品を選定した。まち歩き用や土産用等を選定して次年度にブラッシュアップしていく。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (29年度)	
	特産品開発 2品	目 標	()	(特産品開発2品)	()	()	()	
		実 績		試作品開発5品				
	【参考指標】 特産品販売個数	目 標	()	()	()	()	(年間200個)	
		実 績					年間72個	
	進捗状況説明	平成26年度に応募のあった5試作品の中から専門家の指導、助言を仰ぎ1作品に絞り、平成27年度に商工会女性部による試作品作りが行われた。何回かの試作品作りの中で2種類の味を開発し、町内で行われるイベントでの50食試食アンケートを実施した。平成28年度においては専門家による「食品加工についての基礎講座、殺菌について」「食品の品質管理と衛生管理の基本」を元に長期保存に関する指導を受け、4回の評価会を開催し、「ポークパテ」を完成させた。当初は2種類の味を販売する予定であったが、1種類の味に関しては賞味期限及び栄養成分分析の結果、基準値をクリアすることができなかったため、1種類の「ポークパテ」を製造することとなった。平成28年10月に行われた「第40回沖縄の産業まつり(第19回ありんぐりん市)」においてもテスト販売、アンケート調査を行う事ができた。味や食べやすさにおいては78%以上の方が「おいしい、食べやすい」との評価をしており、500円という価格設定も好評であった。よって平成29年度はテスト販売やアンケートの結果を精査して商品開発を行う予定であったが、事業主体である商工会女性部の役員改正や商品開発の取組に関してさらに検討を進める必要があることから、平成29年度においては商品開発の取組は行っていない。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	実施団体である商工会女性部において、試行錯誤しながらの商品開発となった。専門家の適切なアドバイスもあり、テスト販売まで実施できたが試作品のブラッシュアップ及び販路開拓を検討しなければならない。また、原材料の確保や賞味期限等の改善など課題も多い。	製造過程については、商工会女性部にて委員会を設置し、また、専門家のアドバイスも頂きながら試作品のブラッシュアップをおこなう。 販路開拓については、商工会及び商工会青年部からのアドバイスを頂きながら開拓していく。 原材料費の確保については、与那原・西原業業協同組合の協力を仰ぐ。 賞味期限に関しては、改善・改良を重ね専門機関のアドバイスを頂きながら商品化を目指す。
今後の取り組み方針		
現時点において、実施主体は商工会女性部のみであるが、商工会所属の製造業者、関係企業及び平成27年度に本町に移転した「沖縄女子短期大学」と協力・連携を図りながら、地域特産品の商品化及び販路開拓に取り組む。具体的には、次のとおり取り組む。 1 商品化（製造）関係について 原材料費の確保はもちろんのこと、専門家を交えての作品のブラッシュアップを重ね「ポークパテ」の商品化に向けて検討を重ねる。賞味期限に関しては専門的な機関との調整やアドバイスも必要となることから、早めに専門機関との調整を行う。 2 販路開拓について 町内の商店や飲食店で販売。本町が開催するイベント等での試食やテスト販売をおこなう。また、本町が運営する観光ポータルサイト「よなばるナビ」からの情報発信をおこなう。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
318	270	216	54	48

与那原町
270千円

補助金
270千円

与那原町商工
会
270千円

- ・委員・専門家謝金
- ・委員・専門家旅費
- ・会議費
- ・事務費

資金の 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先の選定として、商工会は以前にも商品開発に携わった経験もあり、適切であるとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については予算の7割が専門家の旅費と謝金で占めており、当初招聘予定であった専門家(県外)との折り合いがなかったため、予算の執行率が低いものとなった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者との負担関係についても商工会で自己負担もしているため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途についても検査の結果、必要なものに限定されている。